

# 令和6年度 園評価に関する報告書

## 1 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

1. 基本的な生活習慣の自立に向けて“やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
2. 異年齢児グループを作り、家庭的な雰囲気の中で子ども同士が自由に遊ぶことにより、子どもが子どもの中で育ち合う環境を作る。
3. 豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
4. 生活や遊びの中で、自分の意思や考えが表現出来るようにし、相手の人権を尊重し、思いやりのある豊かな心を育てる。
5. 子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力・認識力を養い、目標に向かって最後までやりぬく粘り強さを身につけ“生きる力”“人を思う優しさ”を育てる。

## 2 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 一人ひとりの子どもの健康状態や発育、発達、家庭状況を把握し、信頼関係の中で情緒を安定させ、子どもの「思い」を満たせるような教育・保育を展開する。
2. 異年齢の交流をもつことで、身近なモデリングや憧れの存在となり、頼ったり頼られたりすることで、優しさや思いやりの気持ち、自尊心を育てる。
3. 言語の力は、人間形成の基本能力として重視し、絵本を見る、聞く、読むことを通して、ことば、もじの経験を豊富に与え、理解力と表現力の発達を促す。
4. 友だち、先生、地域の方たちと関わり、触れ合う中で、優しさ、思いやり、約束、ルールを守れる協調性、社会性を育む。
5. 様々な活動を通し、試行錯誤しながら挑戦する中で、知的好奇心を高め達成感や充実感を味わい、創造力の豊かな問題解決意欲の高い子どもを育てる。

## 3 評価と課題

1. 一人ひとりの子どもについて、主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を職員間で共通理解の中、話し合い研究する。日々の保育の記録から園児の育ちを職員一人ひとりが視点をもってより一層、幼児理解につながるよう努力する。
2. 昨年度は新型コロナウイルスが5類に変更となり、戸外遊びをはじめ運動会や伝統行事等を通じ、異年齢でふれあう機会を持つことができた。今年度も引き続き、お互いの姿に刺激を受け、思いやりの気持ちや憧れの気持ちが育つように交流を図っていく。
3. 月刊絵本や絵本コーナーの本を通じて、自分の年齢にあった本を読むことで感情の表現の仕方や、文字や言葉への興味をもたせることができた。今年度も異年齢での読み聞かせをすすめていくことで、今まで知らなかった言葉を知り、語彙を増やし、より表現力が豊かになるように働きかけていく。
4. 昨年度は、新型コロナウイルスが落ち着いたことで地域の方々と交流し、保育教諭やともだちと一緒に関わることで、協調性・社会性を学ぶことができた。  
今年度は、地域の方や高齢者の方とのふれあいの中で、人をいたわる気持ちや、思いやりやマナーを学ぶ機会を増やしていく。
5. 制限が徐々に解除され、異年齢との交流が増えたことで、友だち関係を広げ、友だちを思いやったり譲り合ったりする姿がみられた。子どもと一緒に保育教諭が考えたり探したりする姿勢を意識することで、子どもが「なぜ？」などの興味を持ち、自分自身の力で答えを探し見つけていく機会を与えていく。